

# くつろぎカフェ開催！



7月27日(土) 京丹波町にお住いの障害の当事者や、その家族などが集まり交流を図る場として「くつろぎカフェ」をクローバー・デイサービスセンターにて開催しました。

ボランティアで参加したスタッフが中心となり準備をすすめ当日は11名の参加があり、2時間と短い時間ではありましたが、談笑されたり、トランプを楽しんだり、思い思いの時間を過ごされました。



↑トランプ遊び(ババ抜き、神経衰弱)で盛り上がりました。



↑女性参加者にマニキュアでお洒落を楽しんでもらいました。

## NPO 法人クローバー・サービス

京都府船井郡京丹波町橋爪楡山 53

■TEL (0771)88-5014 / ■FAX (0771)88-5017

■e-mail: info@cloverservice.or.jp

■ホームページ http://www.cloverservice.or.jp

## クローバー・デイサービスセンター

京都府船井郡京丹波町橋爪楡山 41-1

■TEL & FAX (0771)88-0138

■e-mail: day@cloverservice.or.jp



facebook QR

# 映画・本・歴史のこと



## 〈第18回〉能登、基隆、九份

有田誠(ありたまこと) 京丹波町在住の映画愛好家。  
写真は、金瓜石・九份への道標 (筆者撮影)

### 能登

十年近く前の事だから、現在はどうか知らない。

石川県の台湾華僑総会の会長陳文筆は、能登の七尾市にある国立病院機構七尾病院の診療部長で内科医だった。

基隆で歯科医をする周振才は、台北医学院卒業だが、日本で歯科医をする兄を訪ね、日本が好きに

なった。三十歳を過ぎて日本語を懸命に勉強した。日本の歯科医師国家試験に一発で合格、開業の地に選んだのが、中能登町だった。住

民に愛され、家も購入した。しかし、父が病気で倒れた。父の歯科医院を継ぐため、止むなく基隆に戻った。一青妙。父が台湾人。母は日本人で、能登の出である。JR七尾線の七尾駅の手前に良川駅と能登二宮駅がある。その間に中能登町一青という地名が見える。母の姓でもある。一青妙も歯科医でエッセ

イスト、俳優も兼ねている。一青妙(顔妙)と九份。一青妙の父顔惠民の実家は基隆にあった。実家と言っても六万坪あり、現在は政府が買い取り、中正公園となっている。顔家は、かつての台湾五大家族(財閥)のひとつである。日本統治期、九份の金に目をつけた関西財閥の藤田伝三郎が採掘を始めた。石炭も出ていた。一青妙の曾祖父顔雲年は、藤田組から採掘権を受け継ぎ、台陽鋳業(株)を立ち上げた。彼は三井財閥や経済界の木村久太郎と結びつく。鉄道、金融、造船など関連企業五十社以上を経営した。

第一次大戦中、九份の金の産出量は最高に達した。家が九軒(九份の由来)しかなかった土地は、五万人以上が移り住む最盛期を迎える。そして一九七一年に閉山となった。海側に隣接する金瓜石と並んで、植民地時代の日本の風景が多く残る。太平洋の向こうは与那国島である。このさびれた地域が再び脚光を浴びる。一九八九年、侯孝賢監督の『悲情城市』が公開された。ヴェネツィア映画祭でグランプリをとり、台湾映画が一躍注目された。作品は基隆、九份、金瓜石で撮影された。日本敗戦の玉音放送から始まる。長男誕生の泣き声とともに、停電の電球が灯る(光復)。

大陸から国民党ならずも部隊が上陸。蒋介石、経国の歴史上最長、三十八年の戒厳令を経て、民主化に舵を切った台湾で、初めて二二八事件から白色テロの数年が描かれた。

『悲情城市』がきっかけとなり、今、九份は観光客でごった返す。日本の修学旅行のコースにまでなっている。

九份の土地の大部分は、現在も顔家が所有している。九份にある新北市立欽賢国民中学は、祖父顔欽賢の寄付で建てられた。



鵝籠山上から見た九份(筆者撮影)

## 蒋介石の恐怖政治

一 青妙の父惠民は一九二八年生まれ。十歳のとき、弟と二人で日本に留学した。

そして、日本の敗戦で台湾に戻った。混乱の続くなか、二二八事件が起きる。祖父欽賢は、事件の処理委員会の中心メンバーとして、国民党当局から指名手配となる。顔家そのものも監視下に置かれた。国外に出るとは不可能だが、惠民は、密航(?)して日本に渡った。

二二八事件から白色テロ(権力側からの弾圧行為)の犠牲者の数は不明だが、二二八で殺害処刑されたのが三万人近く、基隆の杜寮島現(ホーレンダオ)と和平島の沖繩人集落でも、北京語を解さない沖繩人が三十名ほど殺害された。

一九五一年から本格化した白色テロの時期に逮捕、

拘禁、銃殺が続き、六万人が殺され、十五万人が投獄されたという。

## 脚本家呉念真

九份は新北市瑞芳区にある。隣の平溪区とあわせ、石炭産地であった。

瑞芳駅から平溪線が出て八つの単線である。もとは途中の三貂嶺から菁桐までの台陽鉱業石底線だった。一九二九年に台湾総督府が買収するまで、顔家が敷設



侯孝賢(中央)・呉念真(左端)・朱天文(右端)  
(『悲情城市』の出演者と共に)

した石炭輸送線路である。

平溪線を初めて知ったのは、侯孝賢監督の『戀々風塵』(一九八七)のファーストシーンだった。

十分に帰る高校生の男女が、ガラガラの車内で立ったまま本を読んでいる。トンネルだらけの山あいを一輛だけで走っていく。十分に到着。線路際の商店で、女子高生は米を受け取る。男の子がそれを持ってやる。

線路脇に、巡回映画会のスクリーンがはられ、風になびいている。

侯孝賢作品の脚本と言えば朱天文だが、呉念真も先述の二本をはじめ、何作も担当している。

呉念真は瑞芳の生まれ。父は九份、金瓜石で三十年以上、鉱夫をしていた。九份を舞台にした作品

に初監督作品でもある

『多桑』(一九九二)、『八番坑口的新娘』(一九八五)、王童監督の『無言の丘』(一九二)などがある。『無言の丘』は、この八月いっぱいまでの台湾巨匠傑作作品選で全国上映される。

『多桑』は自伝的映画で、ナレーションも担当している。父さん(蔡振南)は、自分を「昭和四年生まれ」と言う。いつもNHKの短波放送を聴いている。植民時代に日本人としての教育を受けた。戦後の九份の鉱夫たちやその家族の日常が描かれる。父さんは、長年の鉱山での仕事で肺を病み、病院の窓から飛び降り自殺をする。

一 青妙は、呉念真と会ったとき、「顔妙」と名乗っ

た。「あの顔家か」と呉念真は驚き、九份の話して盛り上がったとのこと。

## 酒井充子監督

台湾三部作を撮った記録映画監督酒井充子は、北海道新聞の記者時代、初めて台湾を旅行した。九份で日

本語を話す老人に出会ったのがきっかけで、第一作『台湾人生』(二〇〇九)を完成させた。日本語世代の台湾人五人の語りで構成される。過去を現在につなぎ、共に未来に向ける酒井監督の姿勢に大いに共感した。

過去を隠蔽、改竄したい権力者は、「未来志向」という言葉を好む。(敬称略)

## 【参考図書】

一 青妙『わたしの東海岸』(新潮社二〇一六)  
(新潮社二〇一六)  
与那原恵『台湾 記憶の島で』  
『文藝界』二〇一六年六月号 文春

# クローバーも協賛!

8月17日(土) 午後4時  
～午後9時 山村開発センタ  
ーみずほにて、5年ぶりに「み  
ずほ夕涼み大会」が開催され  
ます。クローバー・サービ  
スも地元で活動をする団体とし  
て協賛することになりました。  
暑い夏のひと時、賑わい楽し  
い時間となりますように!



## 〈賛助会員〉

- (有)あさひ堂
- (株)一谷住宅
- イン・ザ・ルーム亀岡店
- 上段税理士事務所
- (株)高木設備
- たにやま鍼灸整骨院
- 田端輪業
- (有)土佐寿司
- (有)永田損害保険事務所
- (有)西村テレビ
- ノエビア京都西都販売会社
- 三木歯科医院
- みづほ電工
- 理容ちどり (五十音順)

## 外出支援からのお願い

多くの方がご利用されており、午前中などは特に混み合います。限られた車両と人員で運行している為、当日のご依頼や、直前の申し込みは、ご希望の時間に添えない場合もありますので、遅くとも前日までに電話予約をお願いします。また行き先が同じ場合は相乗りによる運行や、混み合う際は、多少の時間調整をお願いすることもございます。

たくさんの方が利用されるサービスです。ご理解、ご協力のほどお願いいたします。

### 編集後記

新紙幣はお手元にたどり着きましたか? 7月3日

(水)に発行された新紙幣、一万円札は、日本近代社会の創造者と言われる

【洪沢栄一】五千円札は、女性の地位向上と女性教育に尽力した教育家「津田梅子」千円札は、近代日本医学の父と呼ばれる【北里柴三郎】が肖像になっています

▼人生の中で何度か紙幣の入れ替わりを体験しているので、そのうち手元に新紙幣もたどり着くだろう...と銀行などで両替もせず、ニュースで新紙幣両替に並ぶ人たちの姿を見ていたのです

が、私は案外早く一万円札と千円札を手にとることができました ▼初めて見た印象は、数字が大きく、シンプルな書体なので、「おもちゃのお金みたいだな」と感じました。大きな数字はわかりやすいのですが、まだ馴染みも薄いので、違和感がぬぐえませんが、ただ千円札の裏

六景(神奈川県浪浪裏)で目を惹きます。海外でも知名度が高いこの作品はとも日本らしくて、外国人の方も手に取れば喜ばれるんじゃないでしょうか ▼各所に新しい印刷技術が採用されているようで、ホログラムによってキラキラ光る3D肖像画は角度を変えたら顔が回転します。子供のころよく集めた「ビックリマンチヨコ」のレアシールでも、顔が動くホログラムシールがありました

が、この回転するホログラムがお札に採用されるのは世界初のことだそうです ▼また特殊発光インキも採用されていて、紫外線を当てると表面の印章や表裏の図形の一部が発光するそうです ▼新紙幣が発行されもうすぐ1カ月、スーパーで買い物時にJCBギフト券を使用した母親の姿を見た子供が「それって新しいお金?」と聞いた姿を見かけて思わず微笑んでしまいました。

面が葛飾北斎の「富岳三十